視　察　報　告　書

報告者氏名　野田宏規　㊞

1　会派名

流政会

出席：坂巻儀一　石原修二　森亮二　笠原久恵　大塚洋一
　　近藤美保　渡辺仁二　野田宏規

欠席：青野直

2　期日

令和元年７月２９日（月）～３１日（水）

3　視察地及び調査事項

（１）エーゼロ株式会社　ホトラ舎
　　「農福連携事業」

（２）大阪府大阪市
　　「ＡＩによる戸籍事務のサポート」

（３）OSAKAしごとフィールド
　　「大阪府地域若者サポートステーション」

4　所感等

【１日目】

エーゼロ㈱は、福祉事業を展開するが、株式会社で、本社は岡山である。株式会社のメリットは「福祉ではなく、企業である」というネームバリュー。そのまま雇用もできる。デメリットとしてはやはり税制優遇措置や補助金がもらいにくいこと。農福連携事業「ホトラ舎」やグループホーム「やまえみ」などを経営。将来的にはＡ型Ｂ型の多機能型施設も視野に入れている。

手間がかかる仕事こそ、機械に対抗できる。そのため、手間のかかる農業において、就業継続支援をすすめている。農家のお手伝いというかたちでも仕事を行っている。地域とはきわめて良好な

関係。平均工賃 29,488 円/月ととても高い状況。利用者たちは障害基礎年金で 1 級なら 974,125 円、2 級なら 779,300 円などを受け取っているため、それに合わせて生活している。毎日来てもらうようにすることも重要であるため、農業を取り扱うとすると、雨天時や冬期の仕事をどのように担保するかが重要。これからは、農業の 6 次化で工賃を上げるべく、農作物の加工を考え、販路拡大を狙っている。

【2 日目】

大阪市では、情報システム部門はいっぱいいっぱいだったため、平成 28 年 4 月専任 CIO・市長直轄の「ICT 戦略室」を設置。大阪市の目指す手続きの在り方は①オンライン完結、②リアルタイム、③最低限の入力。これらの実現のために、社会として進める、ICT 活用に向けたアプローチは 4 つ。①ハードウェア（行政）、②ソフトウェア（行政）、③アプリケーション（市民）、④データ活用（市民）。これらの 4 つをそれぞれ進めていき、様々な事業を展開した。

事例①保育所の空き状況のマッピング。課長本人がプログラミングして、費用 0。青少年担当職員からすれば、業務の負荷にしかならないので、少し後ろ向きだった。

事例②フリーアドレス。コミュニケーションコストをいかに下げるかを考えた。引き出しをなくし、ペーパーレス化を促進。また、市長室も紙禁止にした。

事例③車のビッグデータ実証実験。80 台で 1 秒に 1 回データ送信をする 3 か月収集した。

その中で、ＡＩについても活用を考えた。AI の画像認識は防犯、インフラ維持に活用できるが、あまり進まない。そこで、自然言語処理に注目し、ＡＩが類似の文章、関連性のある文章を識別できることを戸籍事務における職員の業務に活かすことにした。平成 30 年 3 月に「出生」、「結婚」、「離婚」を中心に、東淀川区・浪速区でモデル運用開始。4 社から入札があり、富士通が赤字覚悟の 2 年間 1000 万。文章を打ち込むと、Q&A の検索結果が一覧として表示される。

【３日目】

OSAKA しごとフィールドは複合施設で、大阪東ハローワークーコーナー、大阪府地域若者サポートステーション、シニア就業促進センター、中小企業人材支援センター、大阪府プロフェッショナル人材戦略拠点、企業主導型保育事業相談窓口などが入っている。サポステはニートや引きこもりの支援が始まり。ハローワークの手前の機能。応募できるようになるためのトレーニング。サポステは全国に 175 か所ある。就業経験がありブランクが短い人と就業経験がなくブランクが長い人では、必要な支援が違う。前者はキャリアコンサルタントなどが対応するが、後者は医療との連携なども必要。サポステの仕事①仕事体験。②履歴書なしの就活。③働き続けるアフターフォロー。

国は「正社員を目指せ」というが、目指すべきは非正規雇用でも幸せな生活と考える。そのため、住宅支援や中間的な就労支援を始めた。また、寺の檀家ネットワークをビッグデータととらえ、サポステの情報シェアに活用させてもらうイベントを企画。